

高知市社協発第 19 号

令和 4 年 7 月 22 日

社協会員並びに寄付者 各位

社会福祉法人高知市社会福祉協議会
会 長 吉 岡 章

「高知市社協ニュースレターVol. 1」送付について（ご案内）

盛夏の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、社会福祉の推進にご理解、ご協力をいただくとともに、当会の運営にご高配をいただき深く感謝申し上げます。

さて、この度当会におきまして「高知市社協ニュースレター～地域で共に暮らす～」を発行することになりました。このニュースレターは、当会が行っている地域の中で生活課題を抱えた方に対するの支援や活動、地域住民の取り組み等を運営にご協力いただいております皆様へご紹介するものです。

年 2 回の発行を予定しておりますので、今後ともご高覧いただきますようお願いいたします。

また、令和 3 年度以降に会費を納付していただいた方、並びに当会にご寄付いただきました方につきましては、当会の活動報告誌やホームページ等にてお名前を掲載させていただく予定です。大変恐縮ではございますが、お名前の掲載につきまして、ご都合の悪い方がおられましたら、令和 4 年 7 月 29 日（金）までに、その旨を下記の担当までご連絡いただきますようお願い申し上げます。ご連絡がなかった方につきましては、ご了承いただけたものとし、掲載させていただきます。

<担当>

〒780-0850 高知市丸ノ内 1 丁目 7-45

社会福祉法人高知市社会福祉協議会

総務調整課 山下

TEL 088-823-9515 FAX 088-823-8059

Email <<shakyo@kochi-csw.or.jp>>



チャレンジ Challenge!

誰もが安心していきいきと暮らせる
地域社会の実現を目指して



高知市社会福祉協議会

私たちは、様々な地域生活課題の解決に チャレンジします!

少子高齢・人口減少社会に入り、単身世帯が増加する一方、地域福祉を支える若い世代の減少はさらに深刻化しています。厳しい社会経済情勢等を背景に、人と人とのつながりの希薄化もすすみ、家庭や職場、地域の個人を支える機能が弱まっています。ごみ屋敷や8050問題、ヤングケアラーに象徴されるように、社会的孤立や経済的困窮、虐待、ひきこもり、子育て不安等、日々の暮らしをめぐって、複雑・複合化した困りごとや生きづらさを抱える人が増えています。

高知市社会福祉協議会は、様々な地域生活課題の解決をめざし、チャレンジしていきます。

Challenge! 孤独・孤立

住民同士が支え合うまちになるように!

地域では、孤独や孤立を背景とした、孤独死や虐待等の様々な地域生活課題が顕在化しています。

高齢者や多様な人と世代が気軽に集える居場所や親や子どもが交流できる子育てサロン、子ども食堂などの立ち上げを支援します。また、地域住民や企業などが地域の生活課題等の解決に向けて話し合う場「ほおっちょけんネットワーク会議」を開催し、支え合いのあるまちづくりに取り組みます。



子ども食堂



ほおっちょけん
ネットワーク会議



居場所づくり

いつまでも自分らしく、 安心して暮らすことができるように!

頼れる親族等がおらず、高齢や障害により判断能力が不十分になった場合の不安を感じている方が増加しています。

将来の不安に対して、生活の見守りや入院、入所時の立会い、ご本人の希望に沿った死亡後の葬送などを支援する事業を実施します。

判断能力が不十分な方への福祉サービス利用援助や日常生活の金銭管理を行います。また、判断能力が著しく不十分な方には、成年後見制度への申し立ての相談・助言といった手続きのお手伝いをするとともに、親族や専門職など、他に適切な後見人がいない場合は「法人後見人」をお受けします。

Challenge! 生活困窮

誰もが安心できる生活が維持できるように!

生活困窮の背景には、経済的な問題だけではなく、就労や心身の状況、地域社会との関係性等様々な地域生活課題があります。

総合相談窓口として、「ことわらない」「あきらめない」「なげださない」の3原則を掲げ、生活困窮や8050問題、ひきこもりなど、すぐに解決できなくても様々な関係機関と連携して、一人ひとりに寄り添った伴走型の支援に取り組みます。何らかの理由で来所できない方への訪問や、匿名での電話相談への対応、弁護士による無料法律相談なども実施します。

また、困窮状態の方等への、緊急小口資金や総合支援資金の貸付、住居確保給付金の受付を行い、一体的な支援に取り組みます。

日々のお金のやりくり心配しないように!

失業や病気・障害等、何らかの要因により収入と支出のバランスが崩れ、滞納や債務が積み重なり、生活再建の見通しが立たない方の相談が増えています。

相談者の困りごとや不安を聞き取り、生活再建に向けて一緒に取り組みます。レシート集めや通帳からの入出金確認等から、相談者自身の気づきによる節約への寄り添いや、増収に向けた支援、滞納・債務の解消に向けた支援等を行います。



相談支援の様子



就労の課題

自分らしく、社会の一員として豊かな日常が送れるように!

人間関係や仕事のストレスから退職した方、自分に合った仕事が見つからず、生きづらさを抱え、就職に不安がある方など、長期間仕事にブランクがある方からの相談が増えています。

農作業やパソコン作業等を通じて、生活リズムを整え、人と関わる機会をもち、ご希望に合った業種(企業)で働くことを体験するための支援を行います。

また、働く意欲がありながら、就職が困難な障害のある方に対して就労機会を提供し、作業体験や、生活体験、仲間との交流・親睦を通して、働くことの喜びや連帯感、社会性等を育むことで自立・向上を図り、地域社会の一員として、豊かな日常生活が送れるよう援助を行います。



災害ボランティア活動の様子



災害時の対応

少しでも早く普段の暮らしを取り戻せるように!

南海トラフ地震は、昭和南海地震の発生から70年以上が経過し、その切迫度は年々高まっています。自然災害(地震、津波、豪雨など)はいつ起きるか分かりません。

大規模災害に備え、円滑な災害ボランティア活動が行われるようボランティアセンターを開設し、被災された方々の相談や少しでも早く日常生活を送れるようお手伝いいただくボランティアの受け入れ、調整を行います。



障害のある方の地域生活課題

障害があっても自分らしく輝いて暮らせるように!

障害や難病を抱える方が、生きがいを持って生活が営めるよう、様々な取り組みを行っています。

児童・生徒をはじめ、企業や団体に向けて、障害者理解のための出前講座やイベントなどを積極的に行っていきます。

また、その方に必要なサービスの提案や、就労に向けた相談支援を行います。



車いす体験教室



高齢者・障害者の生活介護

住み慣れた地域で暮らし続けることができるように!

誰もが、介護が必要になったり、当たり前のように暮らしてきた日常生活が難しくなることがあります。

デイサービスやヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を運営し、安心して在宅生活を送れるようサポートします。

デイサービスでは、季節のイベントや、職員手作りの寸劇など利用者が楽しめるよう趣向をこらした行事を行います。



職員自作の寸劇で脳を活性化



買い物困難

普段の生活に困らないように!

高齢化や近所のスーパーの閉店などにより、日頃の買い物に困る方が増えています。

春野町仁ノ地区にお住まいの高齢者を対象として、デイサービス送迎車の空き時間帯に、買物が困難な方々を町内のスーパーまで無料送迎しています。



ちょっとした困りごと

身近に手伝ってくれる方がいるように!

既存の制度やサービスでは対応できない地域生活課題の解決に取り組んでいきます。

住民が抱えるちょっとした困りごと(ゴミ出しの手伝いや電球交換、見守り、草引き、話し相手等)に対して無償でお手伝いする生活支援ボランティアを養成します。



あなたの周りで困っている人がいたら、まずは高知市社協へご相談ください。

「誰一人取り残さない 持続可能で 多様性と包摂性のある社会」 の実現



2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」の取り組みが官民で進められています。

SDGsの17のゴールは、世界全体で、社会的に弱い立場にある方々を含めて、一人ひとりを排除や孤独から守り、社会(地域社会)の一員として、支え合うことです。

このSDGsの「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現は、これまでの高知市社協のあゆみや、私たちがめざす「誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会の実現」につながります。

それは住民一人ひとりが協働し、日々ともに支え合いながら、生活における楽しみや生きがいを見出し、生活上のさまざまな困難を抱えた場合でも、社会から孤立せず、安心して、その人らしい生活を送ることができる社会です。私たち高知市社協が行っている社会福祉事業や地域福祉活動そのものです。

私たちは、その目標達成を意識し、地域にある生活上の困りごとへの対応や、住民による支え合いの推進に向け、取り組みを強化していきます。

SDGs(持続可能な開発目標)とは

「誰一人取り残さない」という理念のもと、持続可能な社会を実現するために国連で採択された、2030年までに世界が取り組むことが求められている17ゴール、169のターゲットからなる目標。



社会福祉法人 高知市社会福祉協議会



〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目7番45号 総合あんしんセンター3階
TEL.088-823-9515 FAX.088-823-8059
URL <https://www.kochi-csw.or.jp/>
E-mail shakyo@kochi-csw.or.jp
月～金曜日 午前8時30分～午後5時30分



高知市障害者福祉センター
高知市旭町2丁目21番地6
TEL.088-873-7717
FAX.088-873-6420

●就労継続支援B型事業所
きずな
TEL&FAX.088-873-7790



高知市南部健康福祉センター
高知市百石町3丁目1番30号
TEL.088-878-9060
FAX.088-878-9061

●南部障害者福祉センター
TEL.088-878-9070
FAX.088-878-9071



高知市東部健康福祉センター
高知市葛島4丁目3番3号
TEL.088-882-9380
FAX.088-883-5915



高知市土佐山健康福祉センター
高知市土佐山桑尾1842番地2
TEL.088-895-2111
FAX.088-895-2115



高知市春野あじさい会館
高知市春野町西分1番地1
TEL.088-894-5977
FAX.088-894-4731

●介護センターあじさい会館
TEL.088-894-3572
FAX.088-894-3733

- 総務調整課
TEL.088-823-9515
FAX.088-823-8059
- 地域協働課
(ボランティアセンター)
TEL.088-823-9570
FAX.088-856-5549
- 指定訪問介護事務所
TEL.088-820-6865
FAX.088-823-8109
- 【共に生きる課】
- 高知市成年後見サポートセンター
TEL.088-856-5539
FAX.088-856-5549
- 高知市障害者相談センター北部
TEL.088-820-5211
FAX.088-856-5549
- 高知市生活支援相談センター
TEL.088-856-5529
FAX.088-856-5549



CHALLENGE

ゴミ屋敷問題に向き合う

近年、テレビ等でよく目にする「ゴミ屋敷」問題。

今回は、高知市社会福祉協議会職員が、行政や民生委員等と連携しながら「ゴミ屋敷」問題に取り組んだケースを取り上げます。

●大量のゴミと暮らす

公益財団法人日本都市センターが平成30年1月に全国の814市区を対象に実施したアンケート調査によると、行政が把握・対応している「ゴミ屋敷」は、1920件に上る。

「ゴミ屋敷」とは室内がゴミやほとんど使用しない品々で埋まってしまい、場合によっては家の敷地内に収まらず、道路まで溢れ、通行の妨げとなるなどのケース。ゴミで溢れた家の中で生活していると、カビやダニによる喘息やアレルギーなどを発症したり、ゴミで埋め尽くされ無理な姿勢で寝るため「床ずれ」になるなどの健康被害も問題となってくる。

このような「ゴミ屋敷」となる背景には

- ・認知症でゴミの判別が不可能
- ・高齢・病氣・障害等でゴミ捨てが困難
- ・ためこみ症等

様々な原因があるが、身近な人との別れや人間関係の軋轢が原因でモノを捨てることのできないなどの理由もある。「ゴミ屋敷」問題は、ゴミを片付けるだけでは根本的解決とはならない。個人によりさまざまな理由があり、個々の思いに寄り添った支援や対



応が必要となっている。

〜一本の電話から〜

●食べ物が無い

高知市社会福祉協議会（以下「市社協」）の生活支援相談センターに高知市の窓口センターから食べ物が無くて困っている方がいると対応依頼の電話があった。お名前は「中村さん（仮名）」。

電話を受けた生活支援相談センター職員（以下「センター職員」）は、地域福祉コーディネーター（以下「CSW」※）に相談、2人ですぐに食料を持って中村さんの自宅へ向かった。訪問すると1Kの部屋の床には酒パックやコンビニ弁当など、大量のゴミが散乱していて足の踏み場もない状態。窓際のわずかな隙間に毛布を敷き、寝起きしている状況であった。

食料だけの問題ではなさそうだが！そこで、2人は中村さんに生活歴や生活現状など、詳しく聞き取りを行うことにした。

●おしゃべりして



中村さんは60代の男性。若い時に離婚し、現在家族との交流はなく一人暮らし。仕事は60歳で退職し、年金生活。また、食事は好物の刺し身や寿司、弁当を食べる毎日、煙草やお酒も好きという。お酒が原因なのだろうか？2人は中村さんの少しの回らない話し方や簡単な質問にしばらく間が空く様子が気になっていた。よくよく聞いてみると、退職後、軽い脳梗塞を発症したようだ。

また、退職後今の家に引っ越してきたため、近所に頼れる人はいない。脳梗塞の後遺症もあり、コミュニケーションは取りづらく、友人やご近所の人とのつながりもなく、ずっと自宅に一人であるとのこと。

またお金の管理は苦手、2ヶ月分の年金を2週間で使い果たして食べる物に困っているという事があった。生活の荒廃とゴミの原因には、孤独や病気のせいもあるようだ。

※CSWとは、住民等の生活の困りごとに対して、地域の人々や関係機関と協力して課題解決に向けた支援をしたり、住民主体の地域福祉活動に対して、住民がより自主的に活動に参加できるように支援する市社協の職員。

※民生委員さんとは、地区住民の生活を見守りつづける存在で、市社協の心強い味方です。特別職の地方公務員であり、民生委員法第15条に守秘義務が規定されているため、民生委員とは、支援に必要な個人情報共有することができません。

●どうしようもできん

しばらくして、中村さんがぼつりと答えた。「部屋をきれいにできちんと生活したい。でも自分じゃどうしようもできん…。一緒に考えてほしい。」

中村さんは自分ではどうしようもなく困っている。通常、ゴミ屋敷の問題は簡単には解決しない。しかし、中村さんには何とかしたいという思いがある。今がチャンスだ。

その日から中村さんへの支援が始まった。



●住民の協力を得て

まず、部屋の大量のゴミ処分が必要だが、業者に依頼できるお金は中村さんにはない。

そこでセンター職員は、CSWを通じて地域の民生委員※さんに相談。民生委員さんから、「困っている人がいるのなら、地域の皆さんにも声をかけ協力してもらって支援してあげよう」という了解を取り付けた。

だが、当の中村さんは「他人に迷惑をかけたくない」と悩んでいた。多くの当事者にあてはまる傾向だが、他人に迷惑もかかり簡単に人に助けてとは言えない。「何とかしたい」「何とかしてほしい」との思いはあるが、これまで地域とのつながりもなく、知らない人に簡単に助けてとは言えない心の葛藤がある。

そのため、粘り強く話を聞いていった。現状を変え、暮らしを立て直すためにも、地域のボランティアさんの力を借りてきれいにする必要があると説得。最後は「お願いしたい」と中村さんも納得した。

かつて、困ったら「助けて」と言える関係が地域にはあった。しかし、時代とともに近所とのつながりは薄れ、地域社会には、人や社会とのつながりを持たない、つながり方が分からない、いわゆる社会的孤立の状態の人が増加している。こうした方々は、支援につながる事が難しいケースが多い。また、支援につながっても、気兼ねをしたり、世間体を気にして支援を受けることをためらうことも多く、支援者が根気強く説明し、当事者の心を解きほぐす支援が必要となる。

お知らせ

我らが「ほおっちょけん」が
高知市の「移動式トイレ」にラッピングされました！



高知市が導入した災害時に避難所などで使う移動式のトイレトレーラーに我らが高知市社協のマスコットキャラクター「ほおっちょけん」がラッピングされ、4月25日くろしおくんとほおっちょけんが参加してお披露目されました。

必要であれば西日本を中心に高知市外にも駆けつけるとともに、防災訓練やイベントにも活用される予定です。



このニュースレターは高知市社会福祉協議会の活動を広く知ってもらうため、ほおっちょけんマンスリーサーポーターのご寄付の一部を活用し発行しています。



高知市社協 LINE 公式アカウント始めました。

友だち募集中！

友だち登録で「ほおっちょけん」情報をお届けします

- イベント情報
- 研修・講座情報
- その他地域福祉情報

【お問い合わせ】
社会福祉法人 高知市社会福祉協議会
TEL: 088-823-9515
FAX: 088-823-8059

イベント情報などLINEでお知らせします。是非お友だちになってください。登録方法が分からない方は下の連絡先までお声がけください。

あなたの周りで困っている人がいたら、まずは高知市社協へご相談ください。
高知市社会福祉協議会 ☎ 088-823-9515

うれしい、ありがとう

相談があつてから4日目、当日参加できた地域のボランティアの方2名の協力と社協職員3名で、部屋のゴミを処分し片付けを行うことができた。中村さんは、「自分じゃどうしようもなかった。うれしい、ありがとう」と訥々と語った。



これで良かったのか？

今回の「ゴミ屋敷」は、相談から4日というスピード解決、たまたま、うまくいったがいつも同じようにいくとは限らない。ただ、いつも「これで良かったのか」との思いが職員にはある。市社協では、地域住民の様々な困りごとの相談を受けているが、早くから対応ができていたら、もっと違う支援があつたのではないか。また、他の相談者にも同じような支援が届けられるのだろうか

に、参加し雑談等するなかで地域の人と繋がりができ、生き生きしてきたとの報告があつた。民生委員さんなど、地域の方の見守りもできている。



など。今回の中村さんの場合も、聞き取りの中で脳梗塞の後遺症があることがわかった。困った時に、すぐに「助けて」いうことが発信できていれば、医療にきちんとつながっていれば、こうはなっていないかもしれない。地域には、助けてと言えずに、誰にも相談できずに困っている人がたくさんいる。そうした人たちが「助けて」と言える地域、そうした人たちに誰かの支えが届く地域、そんな地域づくりが求められている。これからも市社協の挑戦は続く。



「ひと」、「想い」～職員の声～

「私たちは次世代のインフラづくりに向けた縁の下の力持ち！」
今回の事例に対応した生活相談支援センター職員から

今回、中村さんに関わるなかで、今まで当たり前のようにあった家族や近所とのさりげないつながりが現在失われつつあることを感じました。

困ったときにすぐ手を差し伸べてくれたり、困った誰かの力になったりする「人」。

その存在は水道・ガス・道路などと同じインフラであり、人とつながっていることは、自分らしく生きるための社会的基盤であると感じました。

センターの職員として、また市社協の職員としても、私たちは、誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会の実現を目指しています。

そのためには、地域の方や企業の方からのお力もお借りして、たくさんの人と一緒に地域生活課題の解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。

このニュースレターをきっかけに、皆さんの身近にある地域生活課題に対する「ほおっちょけん」の気持ちが浸透していくことを願っています。

今の日本では、これまでであった地縁・血縁などのつながりが薄まり、困っていてもSOSを出せず、孤立し、困窮に陥っている人が増えている。足腰が弱くなりゴミ出しできなくても「助けて！」といえずゴミを溜めてしまった人。また大切な家族をなくした喪失感や人間関係の軋轢から空いてしまった心の隙間を埋めるようにゴミを溜めてしまった人。それは個人の問題ではない。「ゴミ屋敷」は時に、地域にとつては迷惑な問題ともなるが、人間関係や社会とのつながりの希薄さ故の孤独や孤立が引き起こした社会問題なのだ。

中村さんが特別というわけではない。高齢者だけの問題ではないが、高知市の単身高齢世帯だけでも2万3千世帯を超える。誰にだって中村さんのようになる可能性はあるのだ。